[59] をもとに (6.18) について再度考える。

これは $p(Y_U,Z_A,Z_U|X_A,X_U,Y_A)$ ではなく、 $p(Y_A,Y_U,Z_A,Z_U|X_A,X_U)$ を検討することになると考えられる。

(6.14) を考慮すると以下のようになる。

$$p(Y_{U}, Z_{A}, Z_{U}|Y_{A}, X_{A}, X_{U}) = \frac{p(Y_{A}, Y_{U}, Z_{A}, Z_{U}, X_{A}, X_{U})}{p(Y_{A}, X_{A}, X_{U})} = \frac{p(X_{A}|Y_{A}, Z_{A})p(Y_{A})p(X_{A})p(X_{U}|Y_{U}, Z_{U})p(Y_{U})p(Z_{U})}{p(Y_{A}, X_{A}, X_{U})}$$

$$= p(X_{A}|Y_{A}, Z_{A})p(Z_{A})p(X_{U}|Y_{U}, Z_{U})p(Y_{U})p(Z_{U})\frac{p(Y_{A})}{p(Y_{A}, X_{A}, X_{U})} = p(X_{A}|Y_{A}, Z_{A})p(Z_{A})p(X_{U}|Y_{U}, Z_{U})p(Y_{U})p(Z_{U})exp\{c\}$$

$$(1)$$

3つめの等号のあとの分数の部分がデータとしてわかっているので定数。

また、q を平均場近似を用いて、以下のようにする。

$$q \equiv q(Y_{U}, Z_{A}, Z_{U}, \psi_{2}; X_{A}, X_{U}, Y_{A}, \psi_{1a}, \psi_{1b}, \psi_{3}) \approx q(Z_{A}; X_{A}, X_{U}, Y_{A}, \psi_{1a}, \psi_{1b}, \psi_{3}) q(Z_{U}; X_{A}, X_{U}, Y_{A}, \psi_{1a}, \psi_{1b}, \psi_{3})$$

$$q(Y_{A}; X_{A}, X_{U}, Y_{A}, \psi_{1a}, \psi_{1b}, \psi_{2}, \psi_{3}) q(Y_{U}, \psi_{2}; X_{A}, X_{U}, Y_{A}, \psi_{1a}, \psi_{1b}, \psi_{3})$$

$$\approx q(Z_{A}; X_{A}, Y_{A}, \psi_{1a}) q(Z_{U}; X_{U}, \psi_{1b}) q(Y_{U}; X_{U}, \psi_{2}) q(Y_{A}; X_{A}, \psi_{2}) q(\psi_{2}; \psi_{3})$$

$$(2)$$

本と異なり、 ψ_2 がパラメータ psi_3 によって決まる確率変数としている。

これらは (6.6),(6.15)-(6.17) のように定数や、得られたデータを用いて、表される。また、対称ディリクレ分布を仮定して、 $q(\psi_2|\psi_3=(\alpha))=Dir(\psi_2|(\alpha))=C_D((\alpha))\prod_k\psi_{2k}^{\alpha-1}$

(3.10) の KL ダイバージェンスの定義を考慮すると、

$$D_{KL}(q(Y_{U}, Z_{A}, Z_{U}, \psi_{2}; X_{A}, Y_{A}, X_{U}, \psi_{1a}, \psi_{1b}, \psi_{3})||p(Y_{U}, Z_{A}, Z_{U}|X_{A}, X_{U}, Y_{A})) = -\mathbb{E}_{q(Z_{A}; X_{A}, Y_{A}, \psi_{1a})}[ln \, p(X_{A}|Y_{A}, Z_{A})]$$

$$-\mathbb{E}_{q(Z_{A}; X_{A}, Y_{A}, \psi_{1a})}[ln \, p(Z_{A})] + \mathbb{E}_{q(Z_{A}; X_{A}, Y_{A}, \psi_{1a})}[ln \, q(Z_{A}; X_{A}, Y_{A}, \psi_{1a})]$$

$$-\mathbb{E}_{q(Y_{U}; X_{U}, \psi_{2})q(\psi_{2}; \psi_{3})}[ln \, p(Y_{U})] - \mathbb{E}_{q(Z_{U}; X_{U}, \psi_{1b})}[ln \, p(X_{U}|Y_{U}, Z_{U})]$$

$$+\mathbb{E}_{q(Y_{U}; X_{U}, \psi_{2})q(\psi_{2}; \psi_{3})}[ln \, q(Y_{U}; X_{U}, \psi_{2})] + \mathbb{E}_{q(Z_{U}; X_{U}, \psi_{1b})}[ln \, q(Z_{U}; X_{U}, \psi_{1b})]$$

$$+\mathbb{E}_{q(Y_{A}; X_{A}, \psi_{2})q(\psi_{2}; \psi_{3})}[ln \, q(Y_{A}; X_{A}, \psi_{2})] + \mathbb{E}_{q(\psi_{2}; \psi_{3})}[ln \, q(\psi_{2}; \psi_{3})] + c$$

$$(3)$$

これで (6.18) に相当する式が求まった。

(6.18) との違いは、期待値を取る確率分布 q の若干の違いもあるが、本質的には以下のみ異なる。

$$\mathbb{E}_{q(Y_A; X_A, \psi_2)q(\psi_2; \psi_3)}[\ln q(Y_A; X_A, \psi_2)] + \mathbb{E}_{q(\psi_2; \psi_3)}[\ln q(\psi_2; \psi_3)] = \\
\mathbb{E}_{q(Y_A; X_A, \psi_2)q(\psi_2; \psi_3)}[\ln q(Y_A; X_A, \psi_2)] + \mathbb{E}_{q}(Y_A; X_A, \psi_2)q(\psi_2; \psi_3)[\ln q(\psi_2; \psi_3)] \\
= \mathbb{E}_{q(Y_A; X_A, \psi_2)q(\psi_2; \psi_3)}[\ln q(Y_A; X_A, \psi_2) + \ln q(\psi_2; \psi_3)] \tag{4}$$

 $q(\psi_2;\psi_3)$ に対称ディリクレ分布を仮定しているので、 ψ_2 の各要素は、ほぼ同一だと想定され、 $q(Y_A;X_A,\psi_2)$ は以下のように仮定する。

$$q(Y_A; X_A, \psi_2) \equiv q(Y_A; \psi_2) = Cat(Y_A | \psi_2) = \prod_a \prod_k \psi_{2k}^{y_{ak}}$$
 (5)

そうした場合、

$$\ln q(Y_A; X_A, \psi_2) + \ln q(\psi_2; \psi_3) = (\sum_k (\sum_a y_{ak} + \alpha - 1) - \ln \psi_{2k}) + c$$
 (6)

 ψ_2 の要素がほぼ同一だと $\sum_a y_{ak}$ が、k によらず、ほぼ同一になり、 $(\sum_a y_{ak} + \alpha - 1)$ が定数とみなせる。よって、

$$\ln q(Y_A; X_A, \psi_2) + \ln q(\psi_2; \psi_3) = (\sum_k (\sum_a y_{ak} + \alpha - 1) - \ln \psi_{2k}) + c = \beta - \ln \psi_2$$
 (7)

よって、(符号は違う気がするが、)(6.22) のような式に妥当性があるように見える。